

平成28年度病虫害発生予察予報第8号（11月）

平成28年11月4日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、少(中西) 平年並(中央、西)、少(中西) 平年並(中央、西)、やや少(中西) <u>やや多(西)</u> 、少(中央、中西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(中西) <u>やや多(西)</u> 、少(中央、中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(西)</u> 、少(東、中央) <u>多(県下全域)</u> 平年並(東、西)、少(中央) 平年並(中央)、やや少(東、西) <u>多(東、中央)</u> 、平年並(西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少(東)、少(中央、中西) <u>多(中央)</u> 、少(東、中西) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、少(東、中央) <u>多(中央)</u> 、平年並(東)、やや少(中西) 平年並(東、中央)、やや少(中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	少(中央) <u>多(中央)</u> 少(中央) 平年並(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台10月27日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞10月29日から11月28日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の降水量は少ない確率50％です。日照時間は多い50％です。

週別の気温は1週目は低い確率50％です。2週目は平年並または高い確率ともに40％です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並		高い(多い)	
1ヶ月	四国地方	気温	30		40		30	
		降水量	50			30		20
		日照時間	20	30		50		

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並		高い	
1週目	四国地方	50			40		10
2週目		20	40			40	
3～4週目		30		40		30	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：10月29日（土）～11月28日（月）

1週目：10月29日（土）～11月4日（金）

2週目：11月5日（土）～11月11日（金）

3～4週目：11月12日（土）～11月25日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（西部）、少（中西部）

根 拠

(1)巡回調査では県中央部、西部での一部で発生が見られたのみであったが、平年に比べ初発生が早かった。発病程度の高いほ場は見られなかった。

(2)11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部、西部）、少（中西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積は平年並以下であり、発病程度の高いほ場も見られなかった。

(2) 11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（中央部、西部）、やや少（中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、寄生密度の高いほ場は見られなかった。なお、西部ではキュウリ退緑黄化病（CCYV）の発生が確認されている。

(2) 気温の低下とともに、野外からのハウス内侵入は無くなる。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや多（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。西部ではやや多めの発生面積であったが、寄生密度の高いほ場は見られなかった。

(2) 気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中央部）、少（中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で見られた。県西部では発生面積が平年の5倍以上であったが、中央部では平年並、中西部は少なかった。また、いずれの地域も寄生密度の高いほ場は見られなかった。

(2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になる。また、野外から施設内への飛び込みも無くなるので、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県中西部、西部で発生が見られた。発生面積は県西部ではやや多め、中西部では少なかった。また、いずれの地域も寄生密度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 今後、気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県東部、西部で発生が見られたが、いずれの地域も発病程度は低かった。
- (2) 11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年に比べ多かったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：平年並（東部、西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、西部で平年並、中央部は少なめで、いずれの地域も寄生密度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 今後、気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、

ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は平年並～やや少なめであったが、中央部では寄生密度の高いほ場も見られた。
- (2) 気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなる。また増殖も緩慢になるため平年並の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（東部、中央部）、平年並（西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部、中央部では全ての巡回ほ場で、西部でも80%程度のほ場で見られたが、寄生密度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 気温の低下とともに、野外からのハウス内侵入は無くなる。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや少（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県東部、中央部で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は平年より少なめであり、発病程度も低かった。
- (2) 11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県中央部でのみで発生が見られた。発生面積は多かったが、一部のほ場でごくわずかに発生が見られた程度であった。
- (2) 11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（東部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部が多かったが、中央部、東部は平年並以下であった。また、発病程度はいずれの地域も低かった。
- (2)11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も寄生密度が高いほ場は見られなかった。
- (2)今後、気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)成虫は植物体に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入するので注意する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。発生面積は県中央部が多めであったが、東部、中西部では平年並以下であった。また、いずれの地域も寄生密度が高いほ場は見られなかった。
- (2)気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなる。また増殖も緩慢になるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（東部、中央部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。いずれの地域も発生面積は平年並以下であり、寄生密度の高いほ場も見られなかった。

(2) 気温の低下とともに、野外密度が低下するため野外からのハウス内侵入はなくなる。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1) 巡回調査では発生が見られなかった。

(2) 11月の降水量は少ないと予想されているため、発生はほとんどないと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。

(2) 11月の降水量は少ないと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1) 巡回調査での発生は見られなかった。

(2) 本病の媒介虫であるタバココナジラミは、気温の低下にともない野外から施設内への侵入は無くなるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

(1) 巡回調査では一部のほ場で発生が見られたが、寄生密度の高いほ場は見られなか

った。

(2)気温の低下とともに、野外密度が低下するため野外からのハウス内侵入はなくなる。また、増殖も緩慢となるため現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

3) その他の病害虫

巡回調査では見られなかった。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.